

文14 宇津の山にいたりて、
①わが人
ら ②むとする道は ③いと ④暗う
細きに、葛・楓は茂り、もの心
細く、 ⑥すずろなる目を見るこ
とと ⑦思ふに、 ⑧修行者会ひた
り。

問一 傍線部⑦ 「思ふ」まで男（主
人公）の視点で語られている。
(1) 傍線部①は誰を指す？

ア語り手 イ男（主人公） ウ修行者

(2) 傍線部⑦の主語は？

ア意志（しよう） イ推量（だろう）
問二 傍線部②は次のどちら？
ア語り手 イ男（主人公） ウ修行者

問三 傍線部③の訳は？

アわずかに イある程度 ウとても

文14 宇津の山にいたりて、
①わが人
ら ②むとする道は ③いと ④暗う
細きに、葛・楓は茂り、もの心
細く、 ⑥すずろなる目を見るこ
とと ⑦思ふに、 ⑧修行者会ひた
り。

問四 傍線部④について

(一) 終止形になると「暗し」になる。
品詞は?

ア動詞 イ形容詞 ウ形容動詞

エ助動詞

(2) 形容詞の連用形の「く」は
「う」に変わつてしまふ場合が
ある。このように言いやすい方
向に音が変化することを音便と
呼び、「う」に変わつてしまふ
場合はウ音便と呼ぶ。

ウ音便の例

高く↓高う

うれしく↓うれしう

傍線部④もウ音便だ。通常の形
に直すと次のどれ?

文14 宇津の山にいたりて、
①わが人
ら ②むとする道は ③いと ④暗う
細きに、葛・楓は茂り、もの心
細く、 ⑥すずろなる目を見るこ
とと ⑦思ふに、 ⑧修行者会ひた
り。

問五 傍線部⑤について

(一) 終止形にすると「細し」になる。
活用の種類は?

ア 四段 イ 上二段 ウ 下二段
上一段 オ 下一段 カ ク活用
シク活用 クナリ活用
タリ活用

(2) ここでは何形になつているか。

ア 未然 イ 連用 ウ 終止 エ 連体
オ 已然 カ 命令

* ク活用の活用表

く く し き けれ
から かり かる かれ

文14 宇津の山にいたりて、
①わが人
ら ②むとする道は ③いと ④暗う
細きに、葛・楓は茂り、もの心
細く、⑥すずろなる目を見るこ
とと ⑦思ふに、⑧修行者会ひた
り。

問六 傍線部⑥は「思いがけない」
という意味を表す語で、終止
形は「すずろなり」になる。
この語の品詞は？

ア動詞 イ形容詞 ウ形容動詞
エ助動詞

文14 宇津の山にいたりて、
①わが人
ら ②むとする道は ③いと ④暗う
細きに、葛・楓は茂り、もの心
細く、 ⑥すずろなる目を見るこ
とと ⑦思ふに、 ⑧修行者会ひた
り。

問七 傍線部⑧について

(一) 傍線部⑧から主語が変わる。誰
が誰に会つたのか。

ア男が修行者に会つた。
イ修行者が男に会つた。

(2) 古文における「修行者」の読み
は?

アしゆぎようしゃ イすぎようしゃ
ウしゆぎようざ エすぎようざ

文14 宇津の山にいたりて、
①わが人
ら ②むとする道は ③いと ④暗う
細きに、葛・楓は茂り、もの心
細く、 ⑥すずろなる目を見るこ
とと ⑦思ふに、 ⑧修行者会ひた
り。

問七 傍線部⑧について

(3) この中の「たり」は完了の助動詞「たり」で、完了の助動詞「り」と同様、次の二つの意味を持つ。ここではどちら？

ア 完了(～してしまつた・～た)

*の瞬間に注目

イ 存続(～ている・～てある)

*の後の状態に注目

このページは空白ページです